

今日は聖書に出てくる二人の人についてお話しします。一人は神様を恐れた人、もう一人は神様を恐れなかった人です。二人とも今から二千年くらい前、イエス様が私たちの罪のために十字架にかかって死に復活して天に帰ったあと活躍した人です。

一人目はパウロです。パウロは、初めはイエス様のことを救い主として信じないでクリスチャンを迫害していましたが、イエス様に天から声をかけられて罪を悔い改め、今度は迫害されながらイエス様のことを外国の人たちに伝えるようになりました。ある時、パウロは仲間のバルナバといっしょにルステラという町で人々に神様の話をしていましたが、その人々の中にいた生まれつき足が悪く歩けない人に神様を信じる心があることがわかったので、その人に立つように命じて歩けるようにしました。これは神様の力によるものでしたが、そのことがわからないルステラの人たちはパウロとバルナバを神話の中の神様が人間になって現れたのだと勘違いして二人を拜もうとしました。驚いたパウロは「どうしてこんなことをするのですか。私たちは皆さんと同じ人間です。もう偽物の神さまを信じるのをやめて、この世界を造られた本当の神様を信じてください」と言って大慌てでそれを止めました。(使徒の働き 14 章)

二人目はユダヤの国の王様のヘロデ(イエス様が生まれた時のヘロデ大王ではなく、その孫のヘロデ・アグリッパ1世)です。とても悪い王様で、クリスチャンを迫害しました。イエス様の弟子のヤコブを死刑にし、ペテロを捕まえて牢屋に入れました。またヘロデ王は、クリスチャンだけでなく、ユダヤの国の近くのツロという町とシドンという町の人たちのことも憎んでいました。ツロとシドンの人たちはユダヤの国から食べ物を買っていたので大変困り、王様にご挨拶させてくださいとヘロデ王の家来にお願いしました。そしてツロとシドンの人たちが来た時、ヘロデ王は王服を着て王座に就き、演説を始めました。これに対して挨拶に来た人々はヘロデ王のご機嫌を取ろうと思って「神の声だ。人の声ではない」と叫び続けました。するとその時です。突然、ヘロデ王は虫にかまれて死んでしまいました。神様が天使を遣わしてヘロデ王に罰を与えたのです。神様に栄光を帰さなかった(神の声と言われても否定しないで、その気になっていた)ので罰を受けたのでした。(使徒の働き 12 章)

さて、パウロとヘロデ王、どちらが神様を恐れる人だったのでしょうか。そうです。パウロが神様を恐れる人、ヘロデ王が神様を恐れなかった人です。神様を恐れる人と恐れない人、どちらが幸せでしょうか。そう、神様を恐れる人です。神様を恐れて神様の命令を守る人というのは、この世界を造られたまことの神さまを信じて、聖書に書いてある神様の命令に従う人、イエス様を救い主として信じる人のことです。その人は、パウロやペテロたちのように、たとえ迫害を受けて苦しめられることがあっても、死んだ後、天国に行って、いつまでも幸せに生きることができます。みんなも神様を恐れて神様の命令を守る人になって下さい。